

われは女成けるものなり

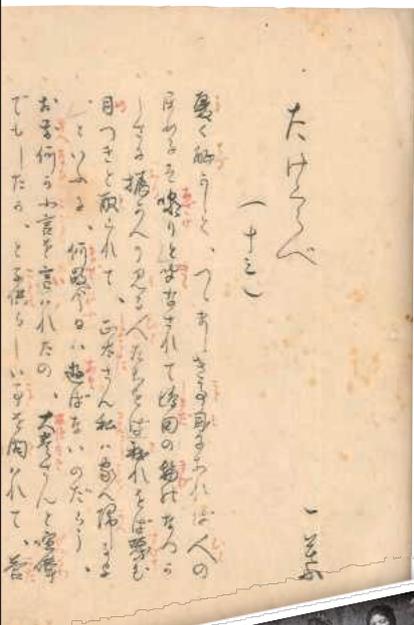
女性として日本で初めて職業作家を志し、貧困のなかで「たけくらべ」「にごりえ」大つごもり」などの名作をのこして24歳で夭折した小説家樋口一葉(明治5年～明治29年/1872年～1896年)。

一葉は、社会の底辺を生きる遊女から上級官吏の妻まで、過酷な運命と向き合う明治の女性たちの姿を独自の文体と冷徹なまなごして鮮やかに描き、日本近代文学の黎明期に異彩を放ちました。

本展では、今なお人々の心を惹きつけてやまない一葉文学の魅力と創作の背景、また一葉自身の女性としての葛藤や苦悩を、日本近代文学館が所蔵する原稿、日記、書簡、愛用品などから探ります。

なお、同じく明治という時代の転換期を生き、日本の保育事業に新たな道を切り開いた姫路出身の野口幽香(慶応2年～昭和25年/1866年～1950年)のコーナーを設け、もう一人の明治の女性を通して当時の時代と社会を考えます。

樋口一葉「たけくらべ」原稿 日本近代文学館寄託
文学界 37号(明治29年1月掲載部分)▶



樋口一葉 半井桃水宛書簡
(明治25年3月10日) ※部分▶
半井桃水は、一葉にとって小説の師であり、思いを寄せ続けた人であった。日本近代文学館蔵



愛用の着物
羽織を肩はわらないように背中で袖、袴をさまざまにはぎ合せてこしらえた小袖。
(日本近代文学館蔵)



◀歌塾「秋の舎」発会記念(明治20年2月21日)3列目左から3人目、一葉(14歳)。12歳で学業を断念した一葉は、中島歌子主宰の秋の舎で王朝文学や和歌を学び、友人やライバルを得た。

記念イベント

※いずれも、会場は姫路文学館 講堂(北館3階)、参加無料

展示解説会

(開場は各回30分前)

- 日時/10月11日(日) ①11:00~12:00 ②14:00~15:00
- 講師/当館学芸員 ●定員/各回80人(当日先着順)、申込不要

記念講演会

- 日時/10月17日(土) 13:30~15:00(開場13:00) ●講師/山本欣司氏(武庫川女子大学教授)
- 演題/「樋口一葉を読み直す―『たけくらべ』『にごりえ』を中心に」
- 定員/定員80人、要申込・9月30日(水)必着

朗読会「樋口一葉『にごりえ』」

- 日時/10月31日(土) 13:30~15:00(開場13:00)
- 出演/音訳ボランティアグループ サークルさえずり ●定員/50人、要申込・10月15日(木)必着

申込方法

往復ハガキもしくは姫路文学館ホームページ(受講申込フォーム)のいずれかで、①イベント名、②郵便番号、③住所、④氏名、⑤電話番号を明記して、姫路文学館(〒670-0021 姫路市山野井町84番地)まで



もう一人の明治の女性

姫路生まれの保育の先駆者

野口幽香

NOGUCHI YUKA

女子高等師範学校卒。日本で初めて貧困層の子どものための保育施設「二葉幼稚園」(現在の東京・二葉保育園の前身)を創設し、近代日本の保育事業に大きな役割を果たした。



姫路文学館
HIMEJI CITY MUSEUM OF LITERATURE
〒670-0021 姫路市山野井町84番地
TEL.079-293-8228
http://www.himejibungakukan.jp/

他館イベントのご案内
特別展「日本画家・福田眉仙」10月10日(土)~11月15日(日)
姫路市立美術館 ☎079-222-2288
秋 季 「漆うるわし-書写塗・竹田塗・丹波漆-兵庫県下の漆」
特別展示 10月24日(土)~12月24日(木)
姫路市立美術館 ☎079-267-0301

- アクセス
●JR山陽電鉄姫路駅より神姫バス9-10-17-18番のりばで乗車6分、「市之橋文学館前」下車、北へ徒歩4分。
●山陽自動車道姫路東IC.あるいは姫路西IC.下車約20分。
●姫路バイパス中地ランプ下車約15分。

QRを読み込んで簡単アクセス!!
姫路文学館公式アカウントで情報やつぶやきを発信中!

ご来館の際の注意
●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用等にご協力ください。
●展示室内の混雑を緩和するため、入場制限を行う場合があります。
●駐車場の台数には限りがあります。公共交通機関をご利用ください。